

令和 5 年 8 月 24 日
9 時 32 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 22 番 氏名 牛尾 昭

答弁を求めるもの 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員
(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1、ふるさと体験村について

(1) 各施設の運営状況について

4月28日に、数年の閉鎖期間を経て、ふるさと体験村がリニューアルオープンした。合併当初の賑わいには、およばないまでも、5月4日の春まつりでは、入口付近まで、車が渋滞した。弥栄支所長が先頭に立ち、お出迎えをされていたのが印象的であった。最盛期ほどではないが、テント村は、旧交を暖める人で一杯であった。ただ、メイン施設を閉じたままのイベント開催に一抹の寂しさを感じたのは、私だけであっただろうか。現在、オープンして3ヶ月を経過したが、各施設の運営状況を問う。

- ①バンガローの貸し出し状況を問う。
- ②古民家の貸し出し状況を問う。
- ③レストランの運営状況を問う。
- ④地元住民による体験型プログラムの稼働状況を問う。

(2) わかりやすい所在地と経路の案内について

- ①体験村の場所がわかりにくいという市民の声に対するの対策を問う。

(3) 森林環境税を財源とする新たな活性化策について

①政府は、森林環境税の見直しに入るようである。現行は、都市部に多く配分されているため、本来の目的にあわせて山間部への配分を手厚くするようである。年末の税制改正での実現を目指すとのことである。現在の体験村周辺を見るときに、森林に親しむような設備が無い。もっと、森林とともに、生活者が共存出来るような空間づくり、又は、来外者が森林体験が出来るような仕掛けが必要と思う。その財源確保のために、この森林環境税を検討してみてはと思うが見解を問う。

2、水産業振興について

(1) ポートセールスについて

①新年度以降の市長のポートセールスは、凄い活動範囲である。余程の目的意識がないとあそこまでは出来ないように思う。市長のポートセールスに対する市長マニフェストを問う。

(2) 底引き網漁船対策について

①8月15日、底引き網漁船4ヶ統が、全船出港した。台風の後で心配するむきもあったが、西へ走るので大丈夫だとの判断であった。全般的に、船員が若返り、家族連れの見送りが多かった。今年は新たに新船が加わり、水揚げ増が期待出来るが現状を問う。

(3) 巻き網漁船対策について

①盆前は、外来の巻き網漁船が入港して、忙しそうであった。地元船1ヶ統が、地域のために頑張っているが、昨年度の水揚げ日数を問う。

②県外船の水揚げ日数を問う。

③地元船の今後の課題を問う。